第７課　私たちの赦しの神

【暗唱聖句】

「罪を隠している者は栄えない。告白して罪を捨てる者は憐れみを受ける」箴言28章 13節

【日曜日・断食と礼拝】

「その月の二十四日に、イスラエルの人々は集まって断食し、粗布をまとい、土をその身に振りかけた。イスラエルの血筋の者は異民族との関係を一切断ち、進み出て、自分たちの罪科と先祖の罪悪を告白した」ネヘミヤ記9章2、3節

イスラエルの人々は共に集まり、民族としての罪を告白し、主の赦しを乞いました。自分たちの国が滅ぼされ、バビロンに捕囚となったのは個人の罪の結果ではなく、イスラエル民族としての罪の結果であったことがわかっていたからです。そのため異民族との関係を一切断って、この告白に臨んだのです。罪の告白は自分たち自身の罪だけでなく、先祖の罪も含まれていました。

「彼らは自分の立場に立ち、その日の四分の一の時間は、彼らの神、主の律法の書を朗読して過ごし、他の四分の一の時間は、彼らの神、主の前に向かって罪を告白し、ひれ伏していた」ネヘミヤ記/9章 3節

彼らはまず四分の一の時間を、律法の書（トーラー）の朗読に費やしました。聖書の教えに反することが罪となるわけですから、まず御言葉に自分自身を照らし合わせて自分たちの罪を見つめたのです。このことは今も同様です。聖書を読むときに、多くの罪が示されます。しかし、同時にそこには神様の赦しと救いについても記されているので、罪悪感に押しつぶされるのではなく、逆に赦されたことへの喜びが溢れるのです。

【月曜日・祈りの最初の部分】

「立って、あなたたちの神、主を賛美せよ。とこしえより、とこしえにいたるまで栄光ある御名が賛美されますように。いかなる賛美も称賛も及ばないその御名が。あなたのみが主。天とその高き極みを、そのすべての軍勢を、地とその上にあるすべてのものを、海とその中にあるすべてのものを、あなたは創造された。あなたは万物に命をお与えになる方。天の軍勢はあなたを伏し拝む。」ネヘミヤ記9章5、6節

罪の告白が終わった後、立ち上がって神様を讃美します。赦されたことへの喜びと感謝を表し、創造主でありすべてを支配されておられる神様の偉大さをたたえるのは正しいことであり、それがすべての祈りの始まりなのです。また神様をたたえていくうちに、神様とわたしたちとの正しい関係が自然と明らかになっていきます。

「あなたこそ、主なる神。アブラムを選んでカルデアのウルから導き出し、名をアブラハムとされた」ネヘミヤ記9章 7節

また彼らの信仰の父祖であるアブラハムの名を挙げて、神様がいかに人生を導いてくださる方であるのかを確認しています。アブラハムはその忠実さゆえに神様から選ばれ召されました。神様に対して忠実であるなら、もう一度アブラハムが主によって導かれたような輝ける人生が始まるのです。

【火曜日・過去からの教訓】

「ところが、わたしたちの先祖は傲慢にふるまい、かたくなになり、戒めに従わなかった」ネヘミヤ9：16

モーセに引き入れられエジプトを脱出できたのは、神様の憐みと偉大なる御業によるものでした。そして、脱出した後に、十戒が授けられ安息日が布告されることで、正しい生き方が示されました。ところが、それにもかかわらず彼らの心は頑なでごう慢でした。しかしそんな先祖たちのことを神様は、「罪を赦す神（であり）恵みに満ち、憐れみ深く、忍耐強く、慈しみに溢れ、先祖を見捨てることはなさら」（ネヘミヤ記9章 17節）らず、カナンの地に招き入れてくださったのです。同じように、罪深い者であっても、悔い改めるなら必ず赦され、新たな道が開かれていくのです。

【水曜日・律法と預言者】

「堅固な町々、肥沃な土地を奪い、すべての良きものに満ちた家、貯水池、ぶどう畑、オリーブと果樹の園を数多く手に入れた。彼らは食べて飽き、太り、大きな恵みを受け、満足して暮らした。しかし、彼らはあなたに背き、反逆し、あなたの律法を捨てて顧みず、回心を説くあなたの預言者たちを殺し、背信の大罪を犯した」ネヘミヤ9：25、26

40年の荒野での生活でも神様は守って下さり、さらにカナンに地を征服後も祝福と守りを与えて下さったおかげで、彼らは食べて飽きて太ってしまうほどでした。ただ、この太るという言葉はあまり良い意味で使われません。「大きな恵みを受け、満足して暮らした」とありますが、それは神様に満足したのではなく、彼らが得たものに対して満足していたのです。あらゆるもので満たされると、神様から離れてしまうのが人間です。案の定、彼らは堕落しはじめ、神様に背き、反逆し、律法を捨てて顧みず、回心を説く預言者たちを殺すという背信の大罪を犯したのでした。もっと良いものを持つことができれば幸せになれるのにと考えるかもしれませんが、そうではないことを、神の民たちの歴史は教えているのです。せっかくの神様からの祝福が逆につまづきの石となってしまったのでした。バビロン捕囚から帰還したイスラエルの人々は、自分たちの先祖が犯した律法を軽視し、預言者たちを殺した事実を、それは大きな罪であったと断じ、罪を告白したのでした。

【木曜日・讃美と嘆願】

「しかし、まことに憐れみ深いあなたは、彼らを滅ぼし尽くそうとはなさらず、見捨てようとはなさらなかった。まことにあなたは恵みに満ち、憐れみ深い神」ネヘミヤ9:31

イスラエルの人々が大罪を犯したにも関わらず、神様は憐みを施し、滅ぼし尽くそうとはならず、見捨てようとはなさらなかった。まことにあなたは恵みに満ち、憐れみ深い神様ですとたたえます。そして、いまネヘミヤやエズラたちは、自分たちがおされてきた状況は、エジプトで奴隷だったときよりも過酷なものだと訴えます。

「御覧ください、今日わたしたちは奴隷にされています。先祖に与えられたこの土地、その実りと恵みを楽しむように、与えられたこの土地にあって御覧ください。わたしたちは奴隷にされています」ネヘミヤ9:36

彼らは自分たちも先祖も罪を犯したのだということを認めつつ、しかし憐みをこうのです。憐みなくして、自分たちに救いはないことを理解していたからです。わたしたちは誰もが罪深いものであります。それゆえに救われるためには、自分の功績には一切価値がなく、ただ憐みにすがるしかないのです。謙遜な思いで神様の御前に出るとき、神様は必ず答えて下さいます。